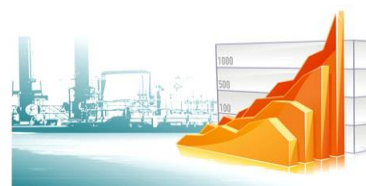


ぎふ経済レポート



令和4年3月分
岐阜県商工労働部

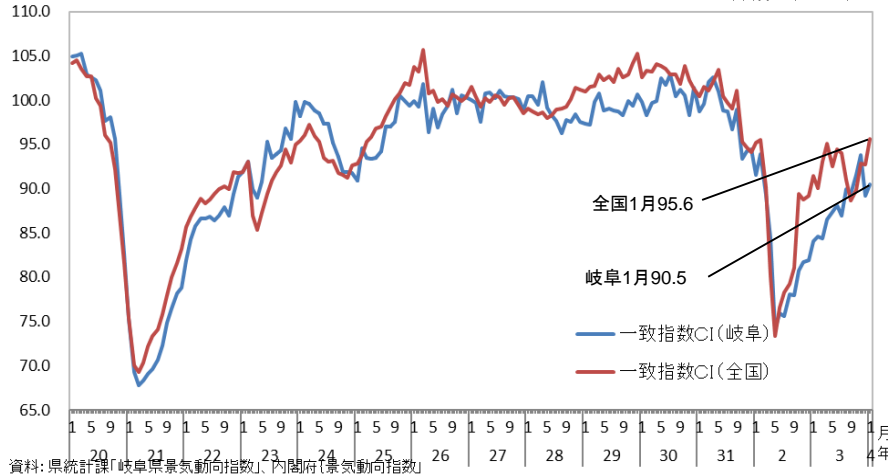
※企業等へのヒアリングは 3月25日～29日を中心に実施し、4月15日時点で作成。

景気動向

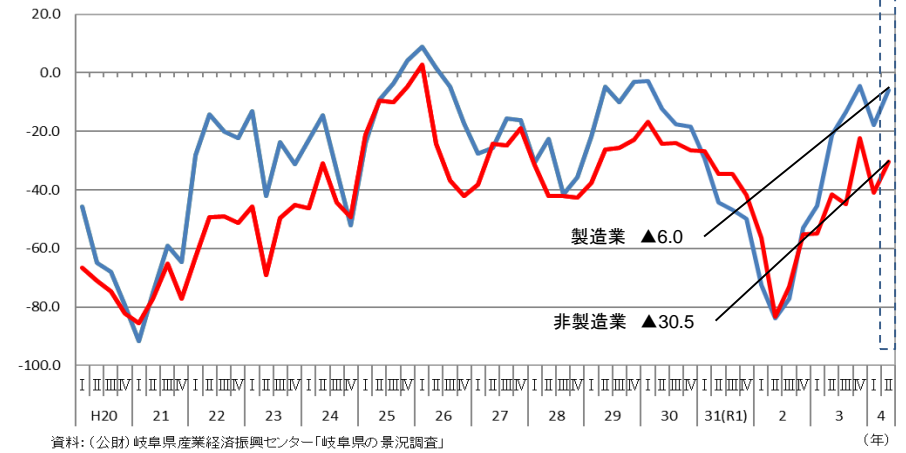
- 1月の景気動向指数(一致指数)は、90.5で前月比1.3ポイント上昇した。
- 2月の県内中小企業の景況感は、▲39で前月比▲8ポイント低下した。

- R4年4-6月期の景況DI見通しは、製造業で前期比11.8ポイント、非製造業で同10.5ポイント上昇。売上高DI見通しは、製造業で前期比8.8ポイント、非製造業で同5.3ポイント上昇。

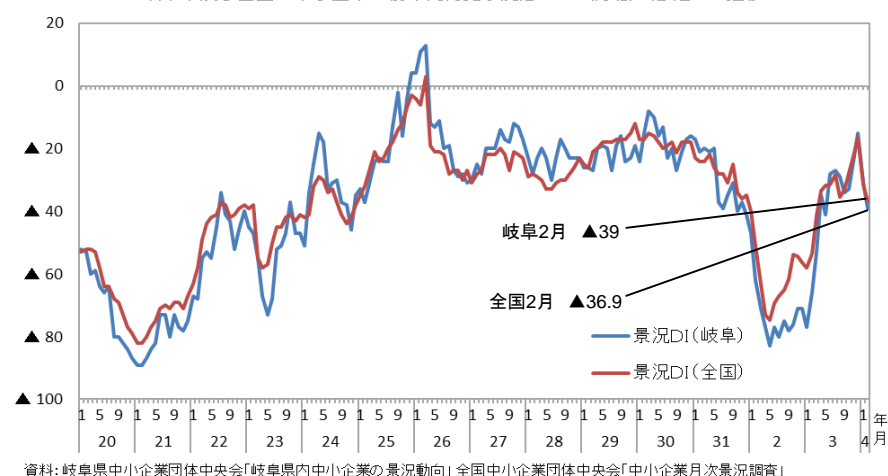
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



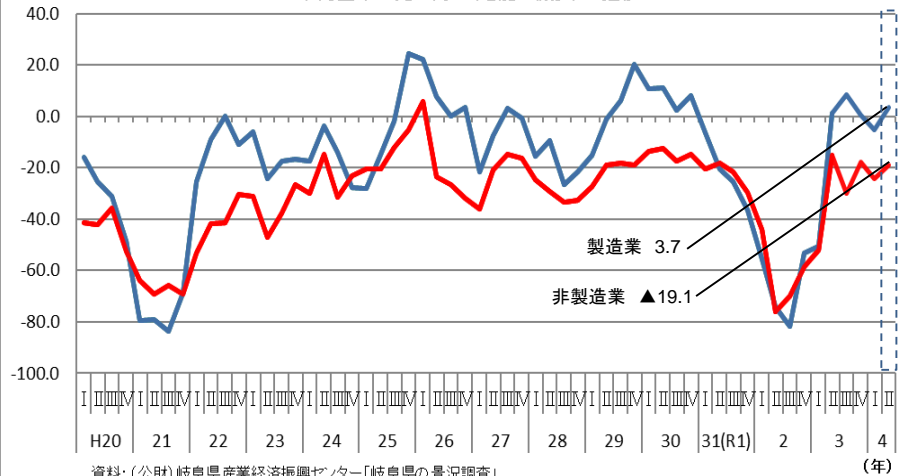
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

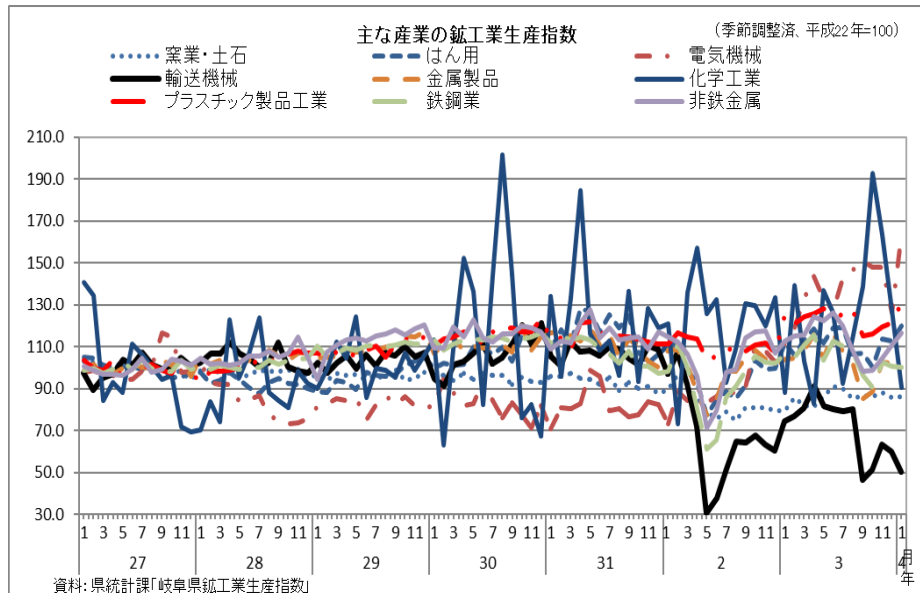
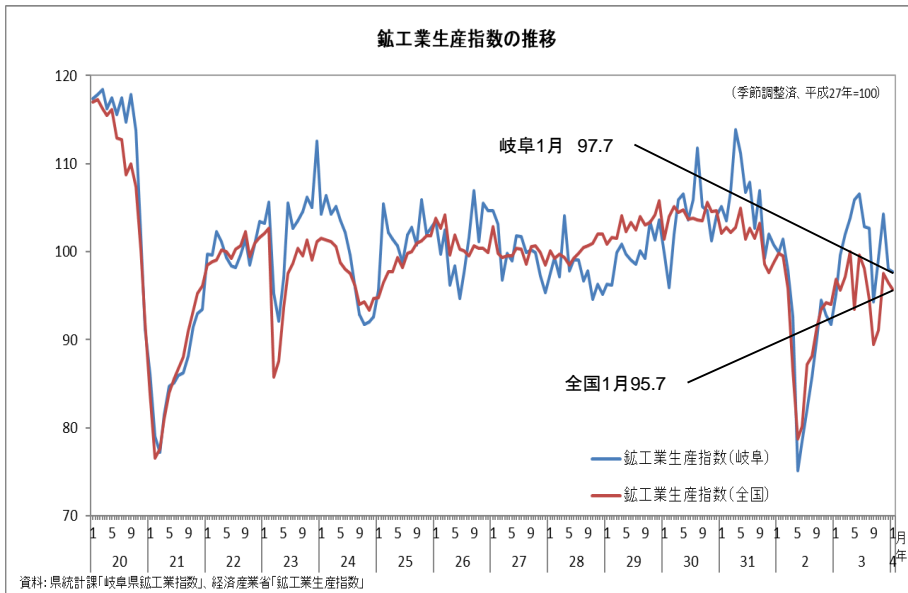


製造業

○1月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、97.7で前月比▲0.3%と低下。

○産業別の前月比では、非鉄金属、はん用、電気機械、窯業・土石、プラスチック製品工業で上昇し、鉄鋼業、金属製品、輸送機器、化学工業で低下した。

○1月の主な産業の指数は、電気機械で前期比29.8%、プラスチック製品工業で同8.2%、はん用で同6.2%、非鉄金属で同5.3%、窯業・土石で同0.9%上昇したものの、化学工業で同▲28.9%、輸送機器で同▲15.7%、金属製品で同▲4.6%、鉄鋼業で同▲0.4%低下した。



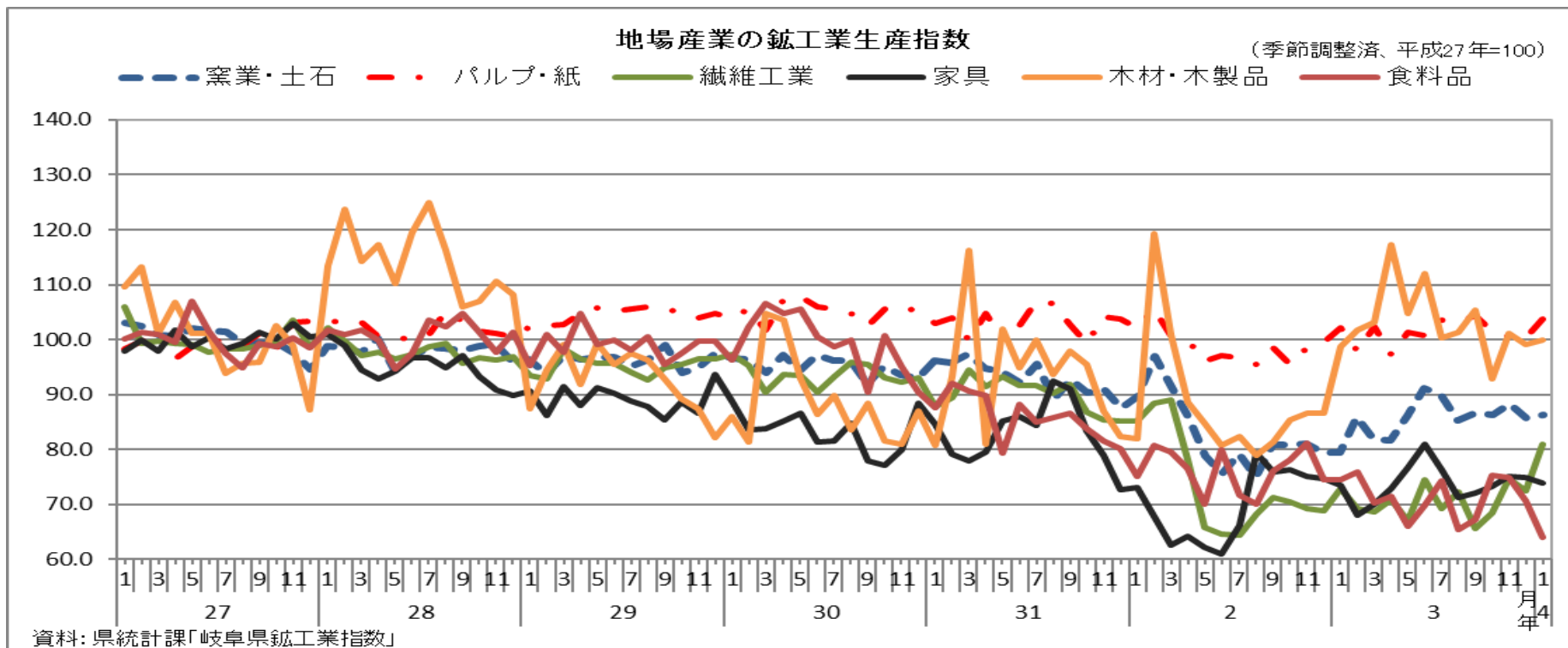
現場の動き

(※新型コロナの第6波や原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 売上は100%に戻りつつある。しかしトヨタの減産の影響が1~2ヶ月後に出るかもしれない。(輸送機器)
- ◆ 国内工場の稼働率は先月と同じく9割程度。海外工場は正常状態に戻っているものの、コロナ感染拡大が続いており、今後工場の閉鎖が懸念される。(電気機械器具)
- ◆ 3月は東北の地震の影響や半導体不足を受けて減産となった。(プラスチック製品)

製造業-2

○1月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比11.6%、パルプ・紙で同3.4%、窯業・土石で同0.9%、木材・木製品で同0.8%上昇した一方で、家具で同▲1.5%、食料品で同▲9.6%低下した。



現場の動き

(※新型コロナの第6波や原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 売上は前年同月比でプラスで推移しており、コロナ感染症拡大前に戻っている。(紙)
- ◆ 今年の1月に入ってから徐々に売上は回復傾向にあったが、コロナ感染拡大の影響で見通しは不透明である。(木工)
- ◆ まん延防止等重点措置の解除によって、店舗へのお客さんの出入りが増えており、売上が徐々に回復していると感じる。(窯業・土石)

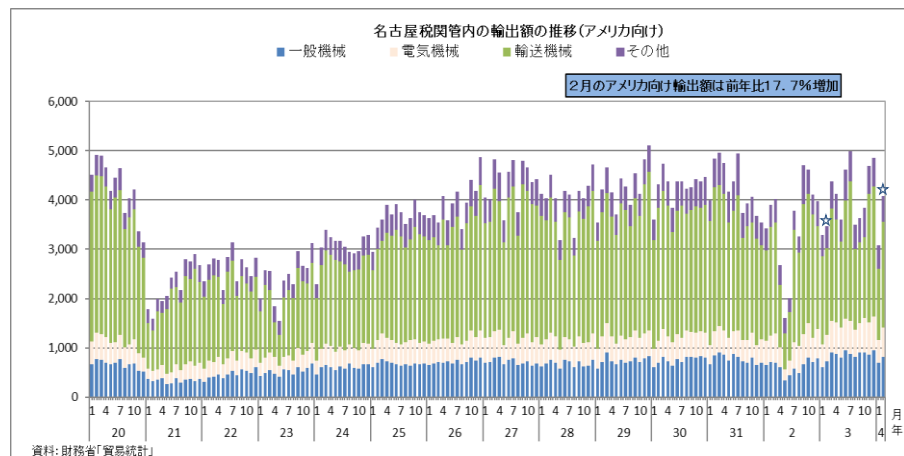
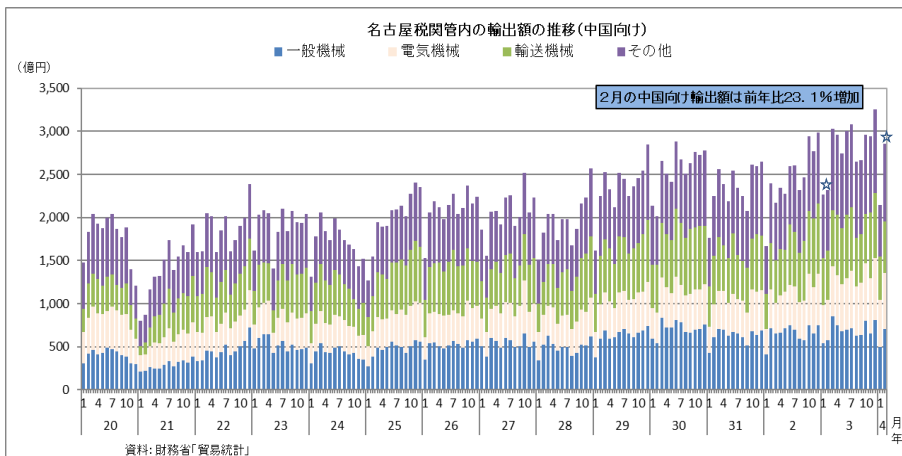
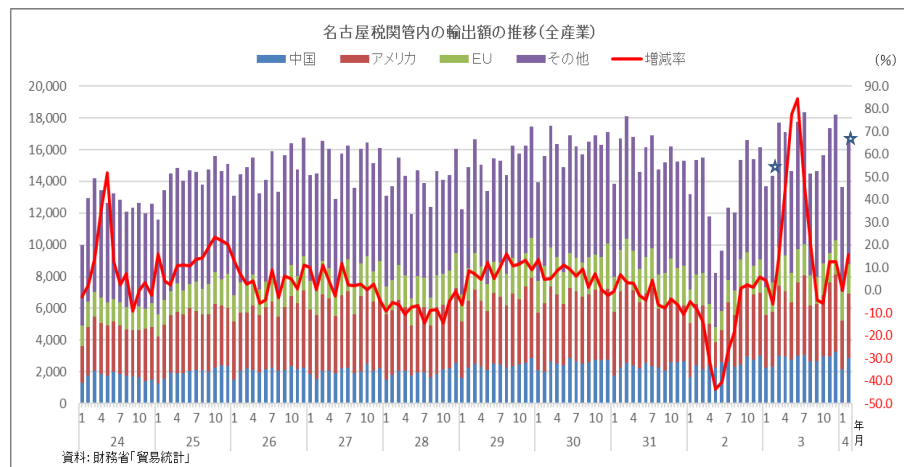
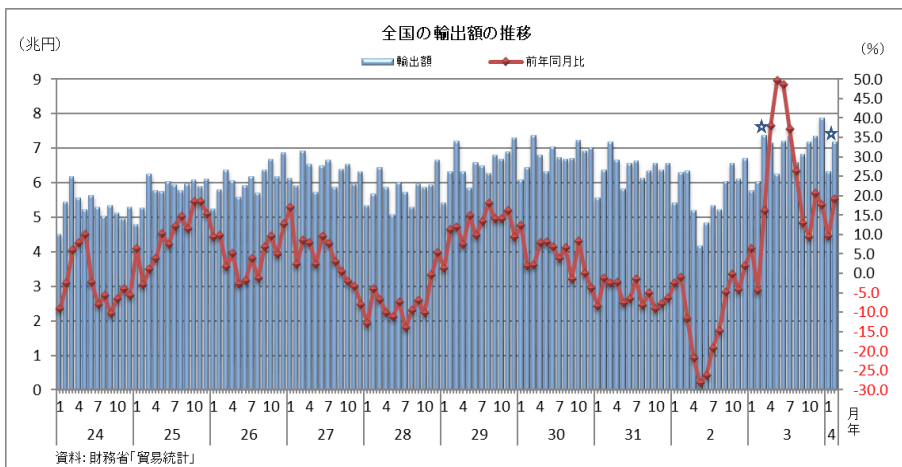
輸 出(名古屋税関管内)

○2月の輸出額(全国)は、7兆1,899億円で前年同月比19.1%増加した。

○2月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆6,623億円で前年同月比15.7%と増加し、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

○中国向けは、全体で前年同月比23.1%増加した。その内、一般機械で同22.3%、電気機械で同38.2%、輸送機械で同6.1%増加した。

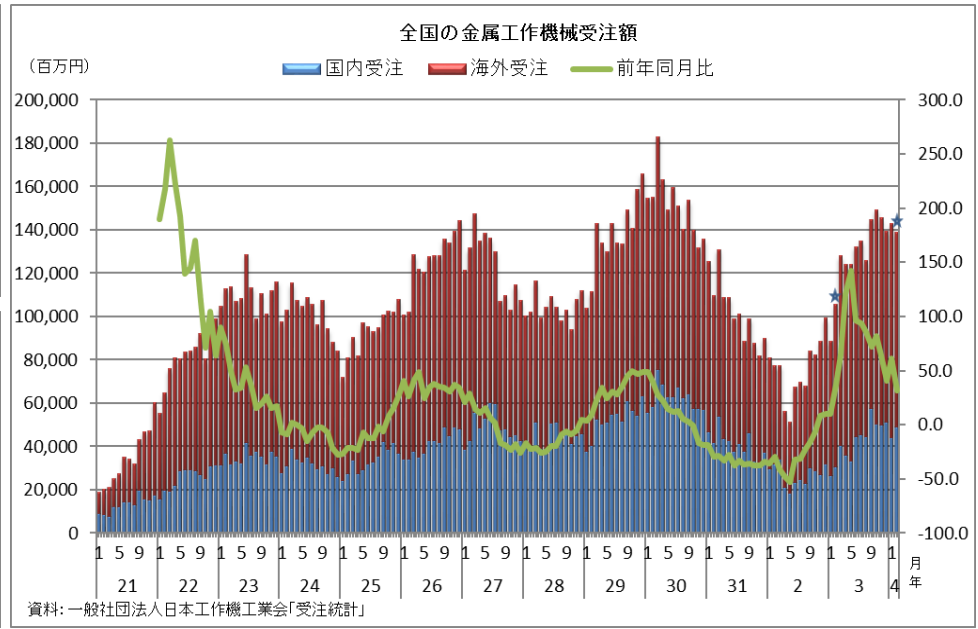
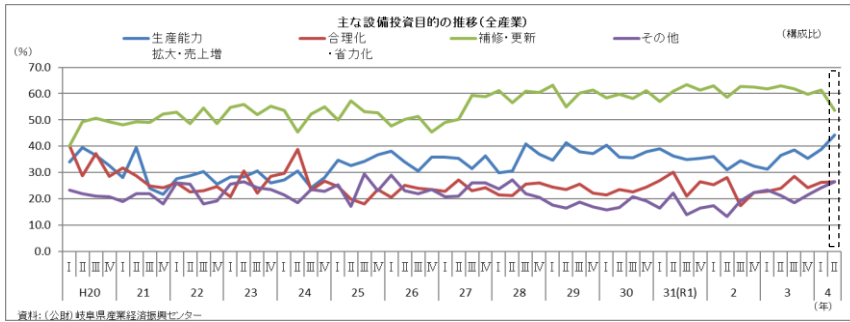
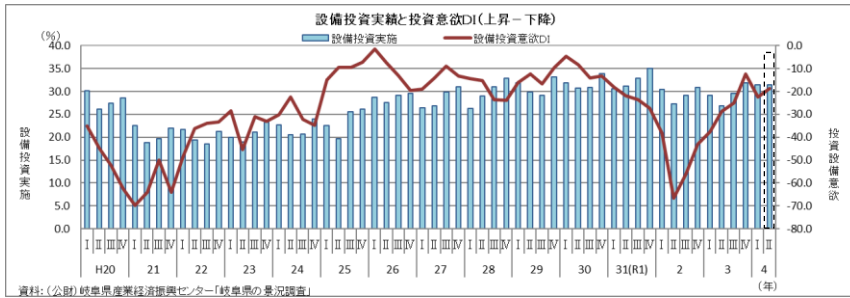
アメリカ向けは、全体で前年同月比17.7%増加した。その内、一般機械で同14.4%、電気機械で同7.5%、輸送機械で同23.0%増加した。



設備投資

○R4年4-6月期の設備投資実施DI見通しは前期比0.1ポイント上昇、設備投資意欲DI見通しは同3.6ポイント上昇。設備投資実施DI見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比5.6ポイント、「合理化・省力化」で同0.2ポイント上昇、「補修・更新」で同▲7.8ポイント低下。

○2月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比31.6%増加と16ヶ月連続で前年を上回った。内訳は国内受注では同60.4%増加と12ヶ月連続、海外向けは同20.0%増加と16ヶ月連続で前年を上回った。



現場の動き

(※新型コロナの第6波や原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 航空機部品のラインを新設中であり、間もなく稼働予定。(輸送機械器具)
- ◆ 機械更新の予定あり。補助金を受けて、新分野の機械を今秋に導入予定。(生産用機械器具)
- ◆ 環境に対応する設備投資を行っていく予定。(プラスチック製品)
- ◆ 寿命が来た機械を定期的に入替えている。(刃物)
- ◆ 好調な企業は、SDGsやESGに関する設備投資を行っているところもあるが、それ以外は、補助金を活用した設備投資がある。しかし、全体的に設備投資が活発という状況ではない。(金融機関からのヒアリング)

新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)による第6波の影響について

- ◆ まん延防止等重点措置が解除され、今後はリモートではなく対面での営業ができると思われる。(輸送機械器具)
- ◆ 半導体不足や海外でのロックダウン等、供給制約の影響による混乱が続いており、生産に必要な部品・資材の調達に苦慮する状況が続いている。(生産用機械器具)
- ◆ 売上は前年比若干減少しているものの、一昨年比では増加している。(刃物)

原油や資材高騰、ウクライナ情勢に伴う経済変動の影響について

- ◆ ロシアのトヨタ稼働停止に伴い、業績に若干の影響あり。(輸送機械器具)
- ◆ 原材料の価格が高騰しており、影響がある。価格転嫁については、お客さまと交渉しているが、なかなかうまくいかない。(電気機械器具)
- ◆ これまでで初めて一部の商品(工業用菜種油)が購入できないという事態になった。(非鉄金属)
- ◆ 制御装置が入ってこないため組立てができず、部品を倉庫を借りて保管しているが、仕掛品が滞留してしまっている。(生産用機械器具)
- ◆ コロナ感染収束に向け原油価格高騰していたが、ロシア・ウクライナ情勢によりさらに原油価格の高騰をまねいており、今期の収益は厳しくなることが予想される。(プラスチック製品)
- ◆ 岐阜のアパレルは東南アジアからの輸入が多く、輸送にかかる運賃が上がっている。(繊維・アパレル)
- ◆ ガスの値段が前年比の1.5倍高くなっている。4月からは釉薬と土も15~20%値上がりする。所属する組合に価格転嫁を要望した。(陶磁器)
- ◆ 原材料が高騰しているものの、国内向けはまだ値上げしていない。海外について、輸出は円安なので、値上げしても問題はない(刃物)
- ◆ 原材料(輸入パルプ等)の高騰の影響があるが、未だ値上げできていない状況。4、5月頃に値上げできるよう準備している。(紙)
- ◆ 4月から配送費を5~10%、段ボール資材は10%値上げすると通知があった。
- ◆ 原材料費、輸送費の価格転嫁は一部で進んでいるが不十分で、発泡樹脂製品の製品販売における収支は悪化している。(プラスチック製品)
- ◆ 円安が進んでいるため、為替ヘッジの需要が高まっている。今後、急速に円安が進むと損失となるため、懸念している。(金融機関)

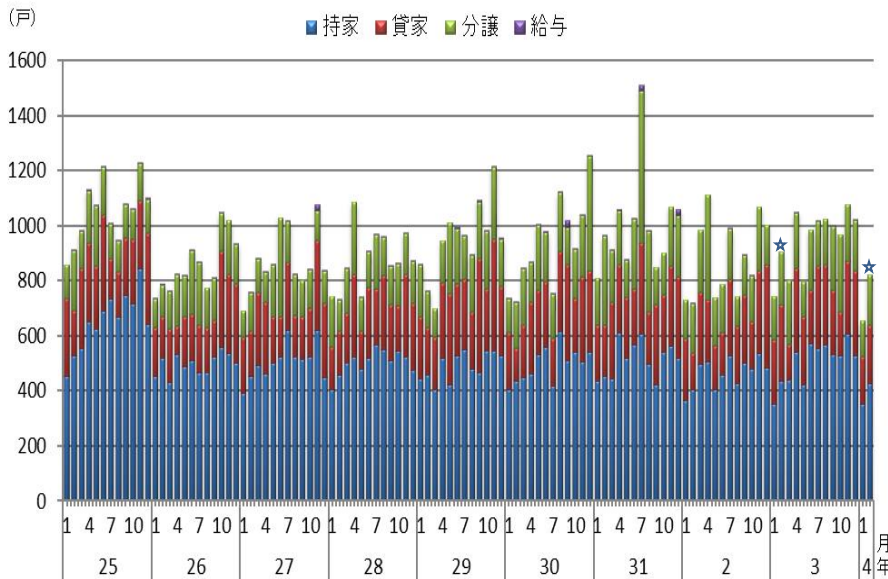
住宅・建築投資

○2月の住宅着工戸数は、前年同月比▲9.0%と減少した。

○持家で前年同月比▲2.8%減少し、貸家で同▲22.3%、分譲で同▲4.1%と減少した。

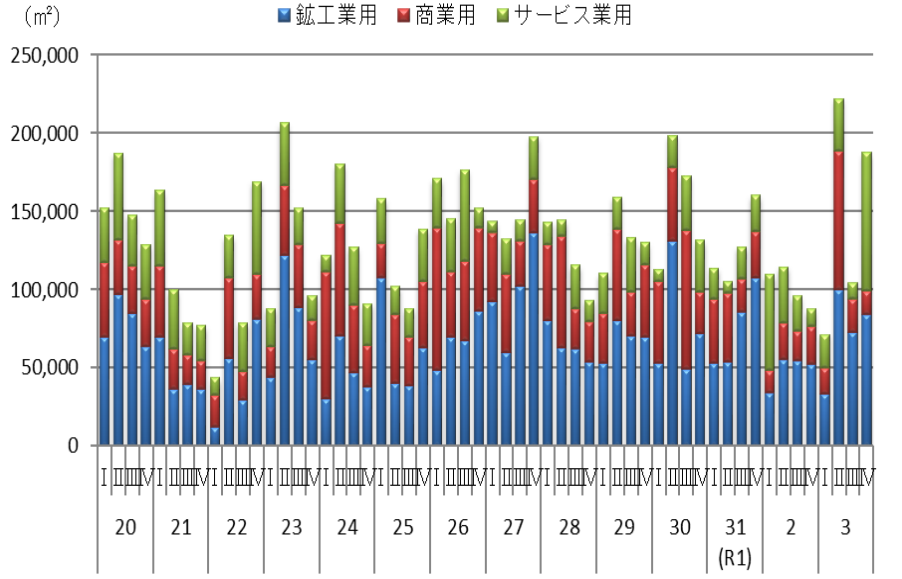
○10-12月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同期比▲35.9%と減少したものの、サービス業用で同674.4%、鉱工業用で同59.9%と増加し、全体として同114.0%と増加した。

新設住宅着工戸数の推移



資料: 県建築指導課「岐阜県建築着工統計」

県内建築着工床面積(非居住用・用途別抜粋)



資料: 県建築指導課「岐阜県建築着工統計」

(年)

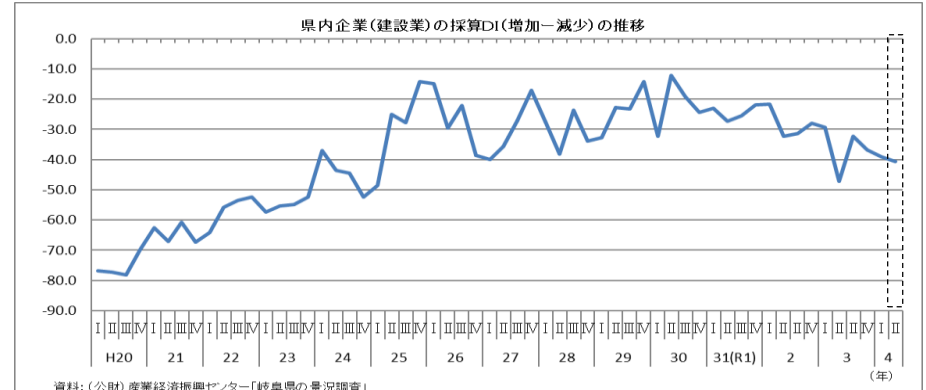
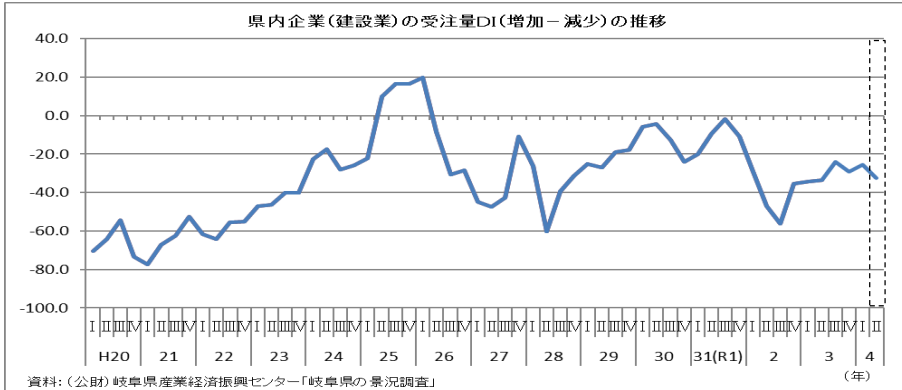
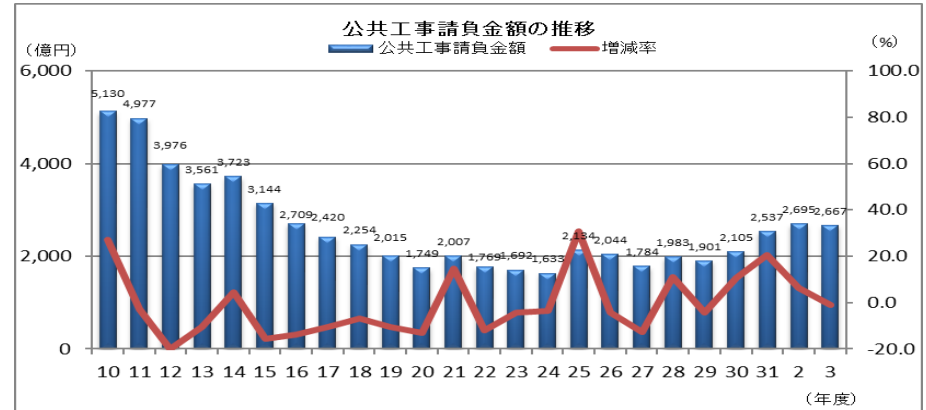
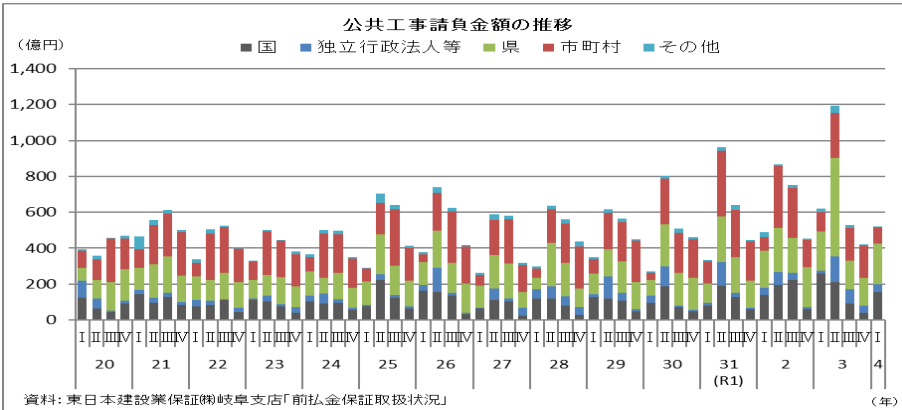
現場の動き

<ウッドショックの影響も含む>

- ◆ 木材、資材共に高止まりしている。資材については値上がりすると予測している。(建築)
- ◆ 3月に価格転嫁したが、メーカーからの資材高騰が続いており、価格上昇に追いついていない。今後の価格変動の予想が全くつかない。(建築)
- ◆ 鋼材の値上がり、帯鋸などの刃物関係の消耗品に影響が出ると製材ができなくなり、製品への影響が出る。(木材加工)

公共工事

- 10-12月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人で前年同期比231.8%と増加したものの、国で同▲33.4%、県で同▲31.2%と減少するなど、全体で同▲6.1%減少した。
- 県内建設業のR4年1-3月期の受注量DI見通しは前期比1.5ポイント、同採算DIは同4.1ポイント上昇。



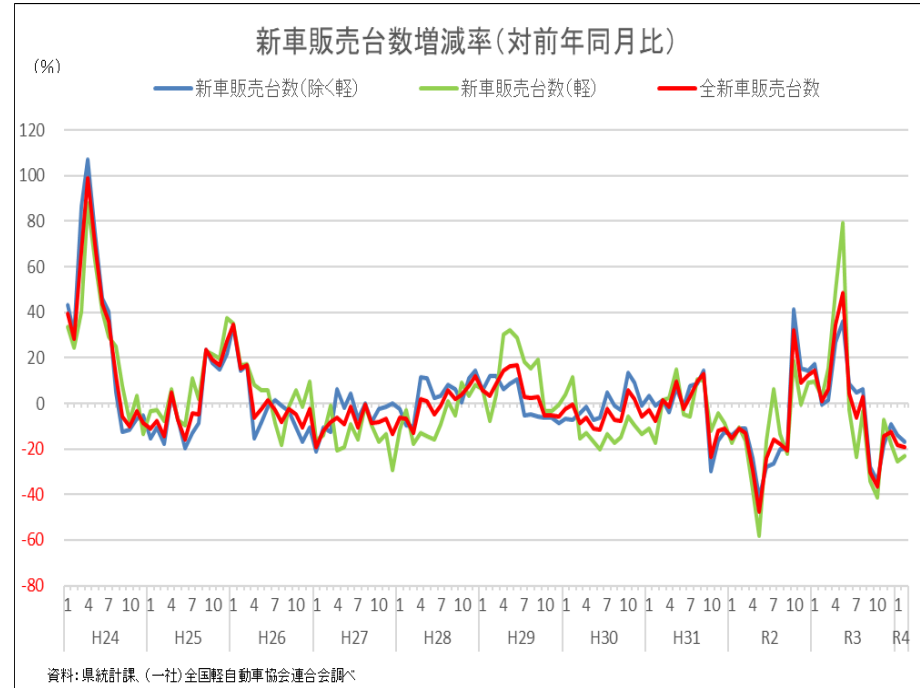
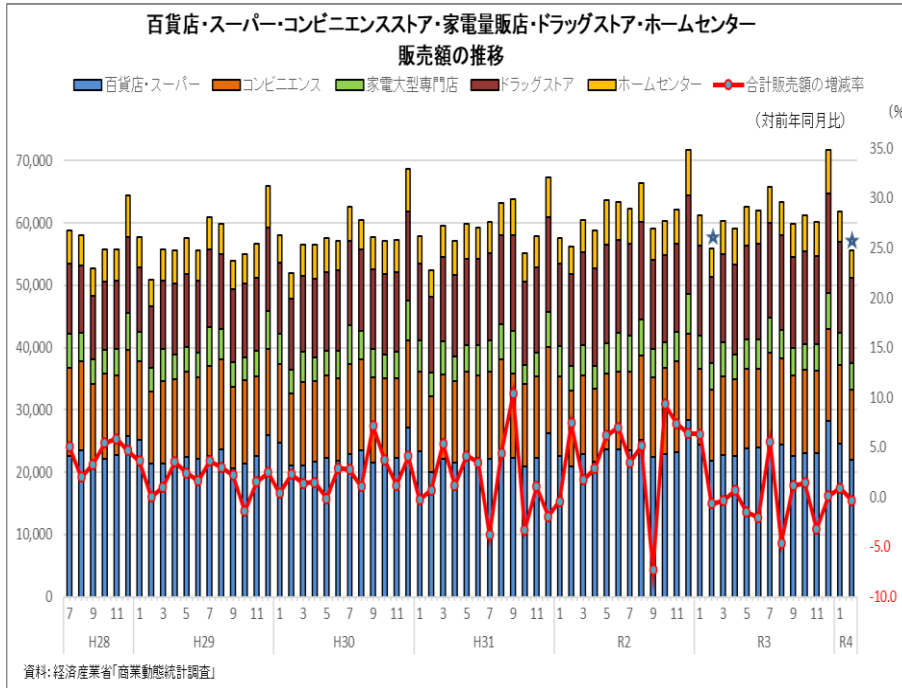
現場の動き

- ◆ 燃料の値上がりを強く感じる。
- ◆ 資材は価格上昇だけでなく、納期も延びている。
- ◆ 技術者は年度初めは余裕があるものの、年度末は人手が不足しているため受注があってもすぐに取り掛かることができない。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○2月は百貨店・スーパーで前年同月比0.4%、コンビニで同0.1%増加したものの、家電大型専門店と同▲2.9%、ドラッグストアで同▲0.7%、ホームセンターで同▲1.1%減少し、全体で同▲0.3%減少した。

○2月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲16.7%と6ヶ月連続で前年同月を下回った。軽自動車は同▲22.9%と9ヶ月連続で前年同月を下回った。合算では同▲19.0%と、前年同月を6ヶ月連続で下回った。



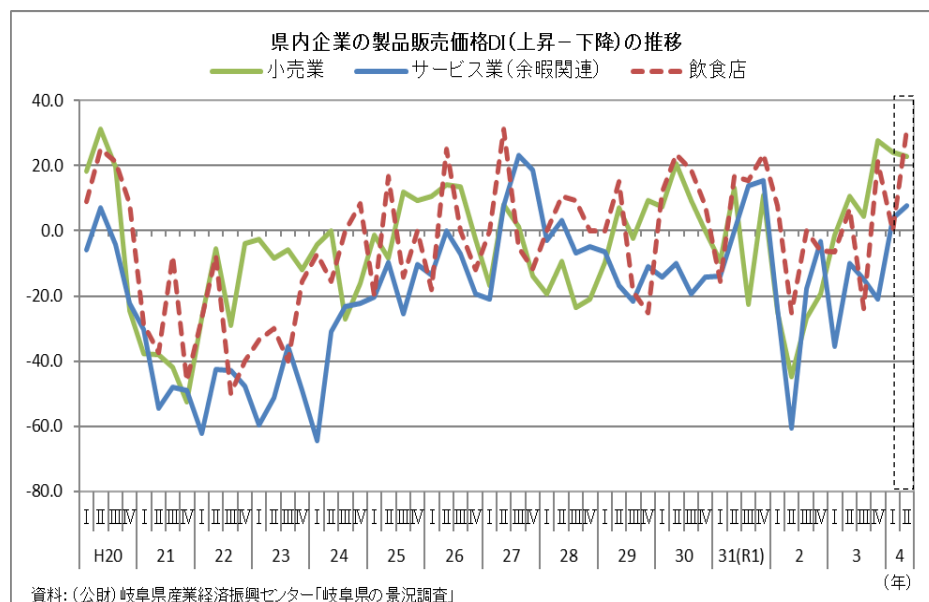
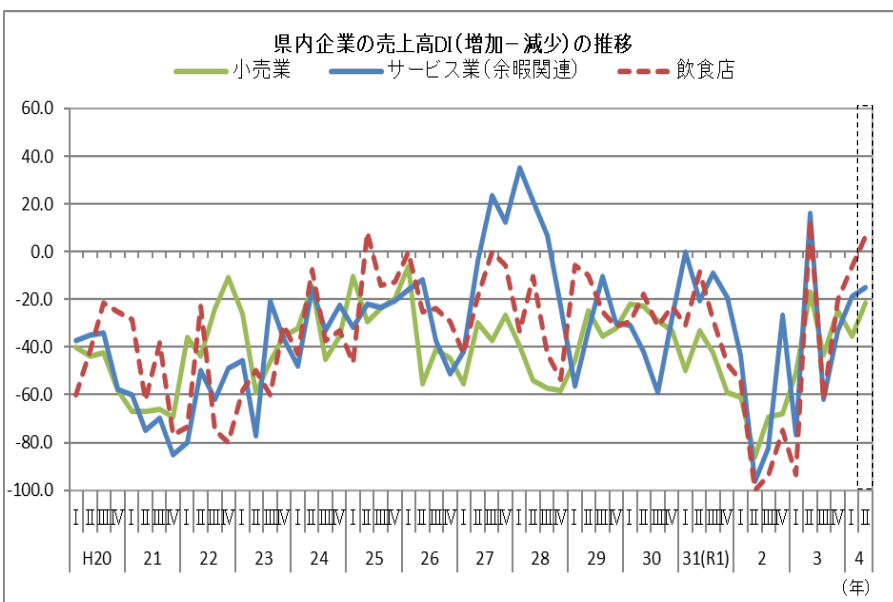
現場の動き

- ◆ 来店客は広域からという店質なので、まん延防止等重点措置の影響で客数が落ちてしまう。まん延防止等重点措置終了後の客足に期待している。
 - ◆ 原油・原材料高騰により、価格上昇の原因になることは間違いない。
 - ◆ 包装資材が大きく値上がりした。かなり影響があるものの、販売価格に転嫁するわけにはいかない。
 - ◆ 今年は月をとおして低気温と降雪の影響を受けた。またオミクロン株は感染者数が多く、前年よりもコロナによる影響は大きい。
- (以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

○R4年4－6月期の売上高DI見通しは、小売業で前期比13.6ポイント、サービス業(余暇関連)で同3.8ポイント、飲食店で同12.4ポイント上昇。

○同じく販売価格DI見通しは、小売業で前期比▲1.4ポイント低下したものの、サービス業(余暇関連)で同4.0ポイント、飲食店で同31.3ポイント上昇。



現場の動き

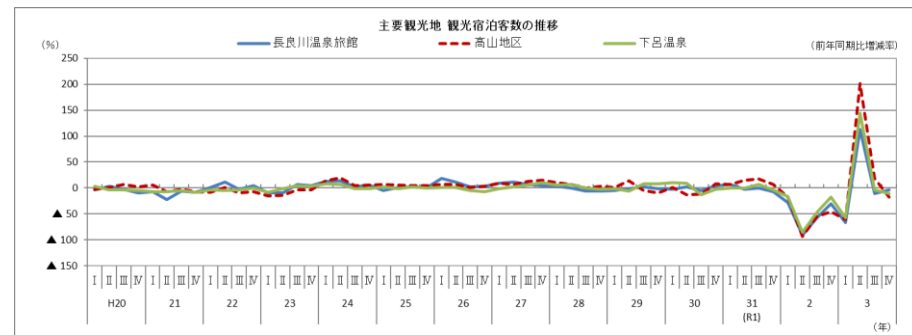
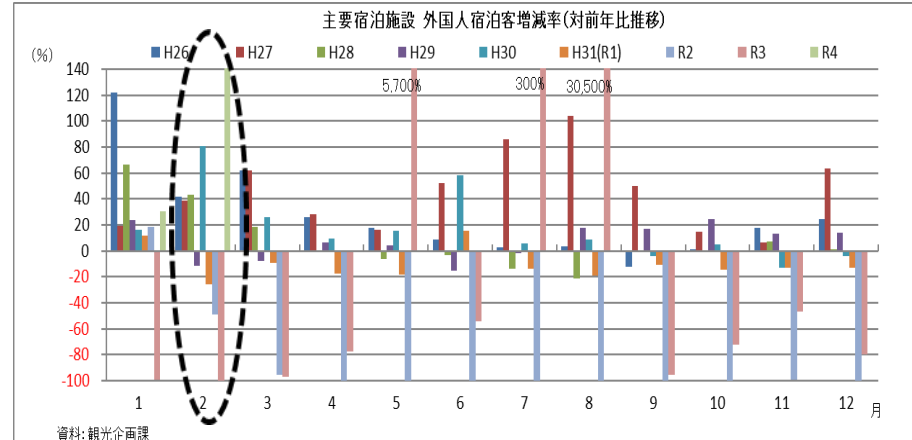
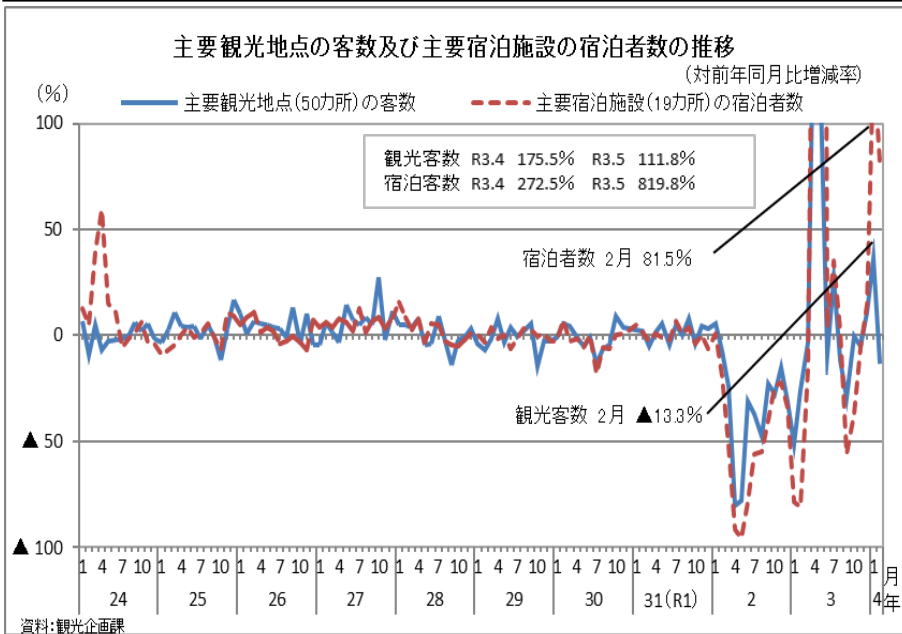
- ◆ 3月は「サンデービルディングマーケット」を再開したが、まん延防止等重点措置発令中につき、飲食店の出店をなしにするなど、規模を大幅に縮小して再開したため、集客が大幅に減少した。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 2月末にプレミアム付き商品券の利用が終了し、3月に入ってから売上は激減していたものの、中旬にTVの情報番組で放映されてからは、昨年比150%の売上があった。ガソリン高騰により、車両での配達経費が増加し、利益が悪化している。(大垣市商店街)
- ◆ 家電量販店では電気工事のみで家電製品は全く売れない。4月からの値上げが多く、春の行楽シーズンやGWも消費は伸びないのではないかと危惧している。(高山市商店街)
- ◆ 店頭では高額商品が売れない状況がまだ続いている中、ネットで購入するという需要があり、ネット販売に力を入れている事業者が増えている。(多治見市商店街)

観光

○主要観光地における2月の観光客数は、前年同月比▲13.3%、コロナ前の令和元年同月比では、▲39.6%となっている。

○主要宿泊施設における2月の宿泊者数は、前年同月比81.5%増、令和元年同月比では、▲74.4%となっている。

○2月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、前年同月比250%増、コロナ前の令和元年同月比では、▲100%となっている。

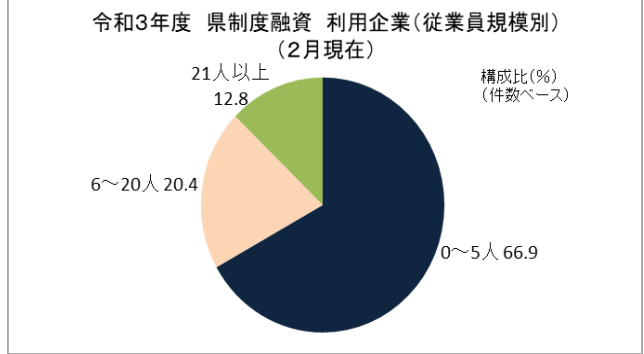
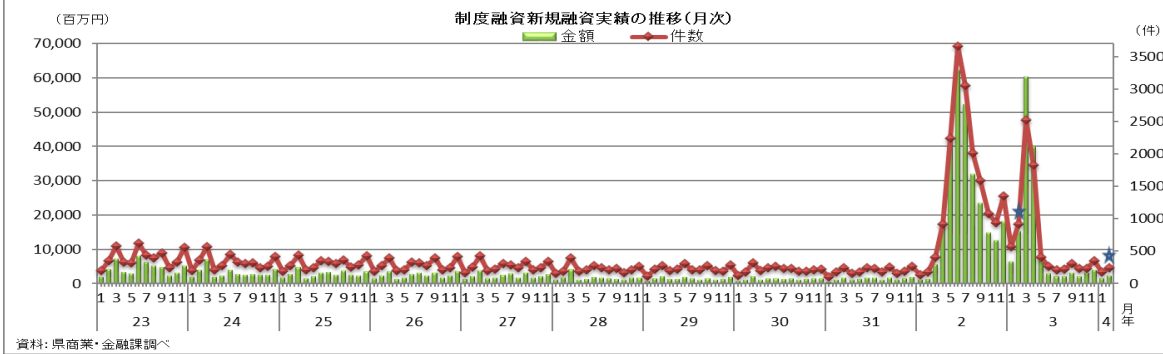
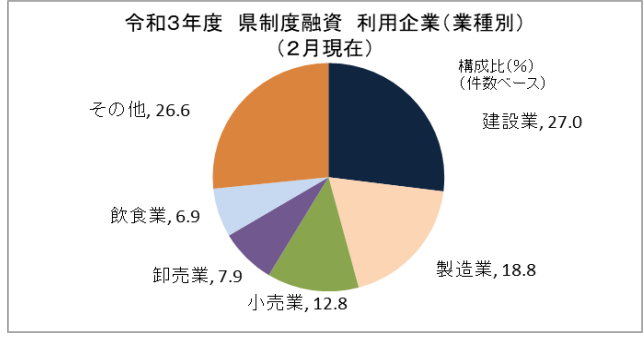
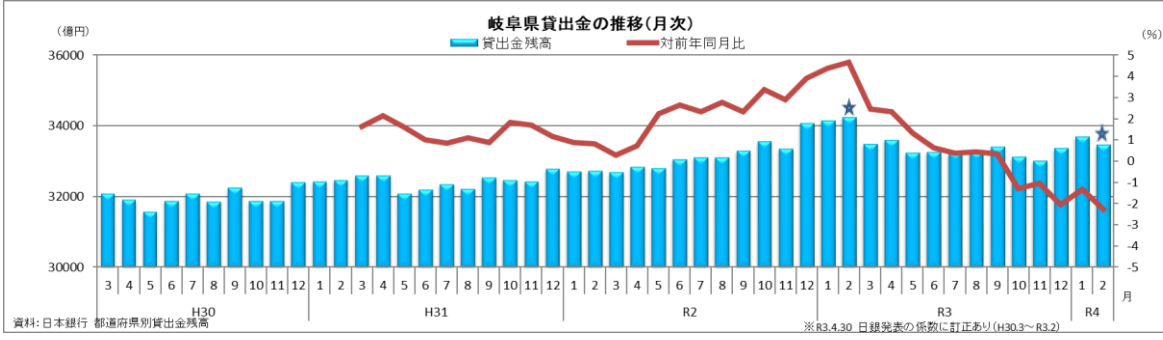


現場の動き

- ◆例年と比較し、予約は3割ほど少ない。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆平日の入込みは鈍く、週末でも満室になることは無い。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆3月の平日は休館日を設定している。(岐阜市、郡上市内、奥飛驒の宿泊施設)
- ◆材料費や運送費の上昇により原価が上がっており、経営を非常に圧迫している。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆材料費や燃料費の上昇により、客単価を上げざるを得ない状況。(奥飛驒の宿泊施設)
- ◆今の売上では従業員も余っているが、客足が戻った際に人材不足で厳しいと思われる。(岐阜市内の宿泊施設)

資金繰り

- 2月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,478億円 で前年同月比▲2.3%と5ヶ月連続で減少。
- 2月の制度融資実績は、金額が2,643百万円で前年同月比で▲82.9%、件数は241件で同▲73.8%と、いずれも10ヶ月連続で減少した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の66.9%を占めている。



現場の動き

- ◆ 円安による原材料価格の上昇の影響は、コロナよりも大きいのではないかと懸念している。
- ◆ 大手企業と取引しているところほど価格転嫁ができていない状況である。
- ◆ 自動車メーカーの生産状況は毎月変わっている状況である。原材料、エネルギー高により見通しが立ちづらい。
- ◆ ゼロゼロ融資の返済が徐々に始まっていくため、今後、資金需要の高まりや条件変更等出てくると思うが、現状は目立った動きはない。
- ◆ 事業再構築補助金等を活用した設備投資がほとんどで、前向きな設備投資は目立たず、活発ではない。

(以上、金融機関)

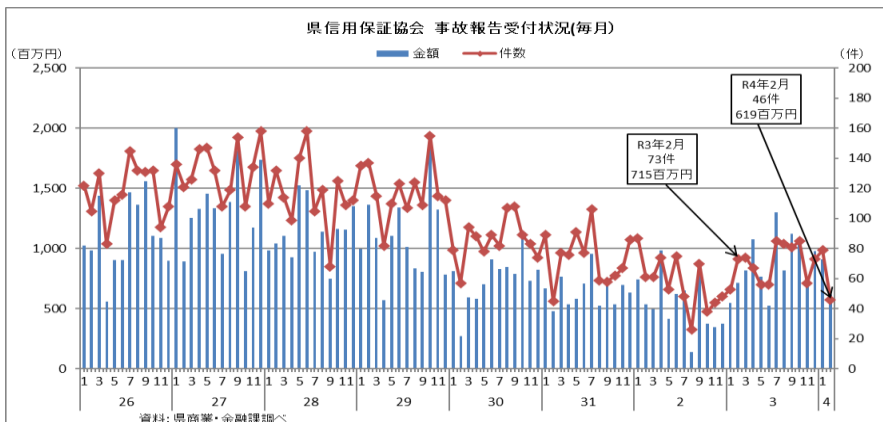
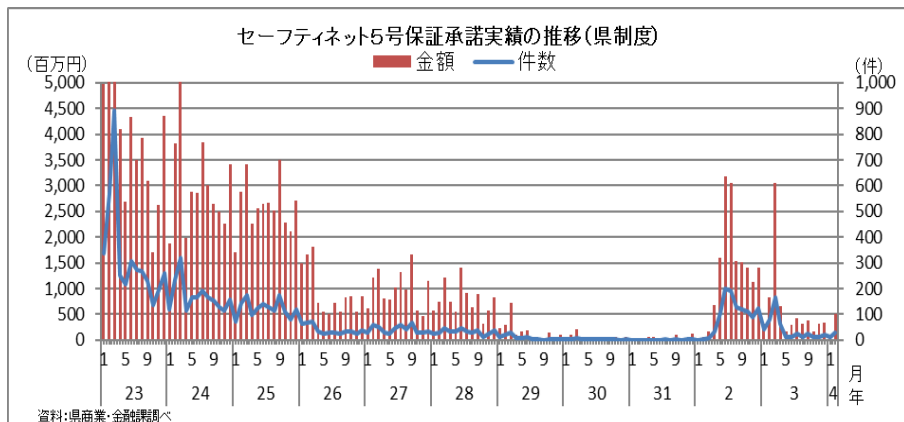
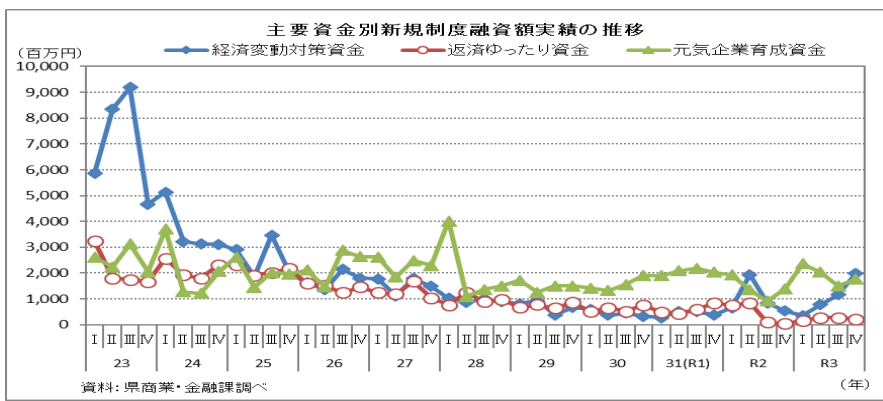
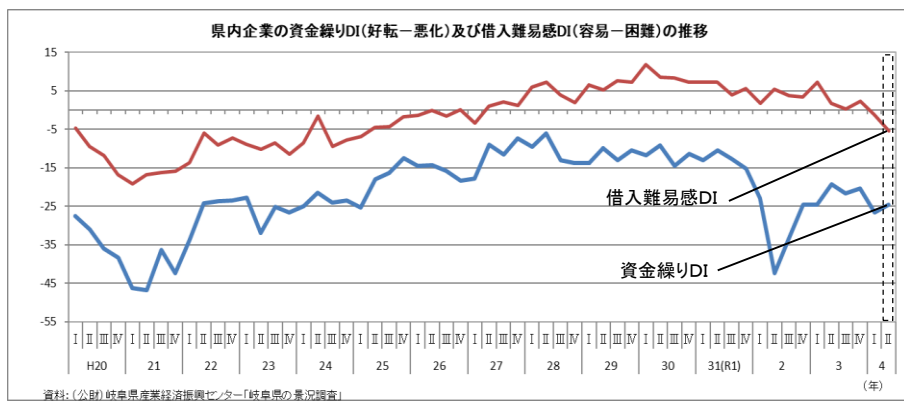
資金繰り-2

○R4年4-6月期の資金繰りDI見通しは▲24.6で、前期比2.0ポイント上昇。同借入難易感DI見通しは▲5.4で、同▲4.3ポイント低下。

○10-12月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前期比478.2%と2期連続の増加、経済変動対策資金で同275.6%と2期連続の増加、元気企業育成資金で同26.1%と4期連続の増加となった。

○2月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が27件で前年同月比▲54件減少、金額は516百万円で同▲306百万円減少した。

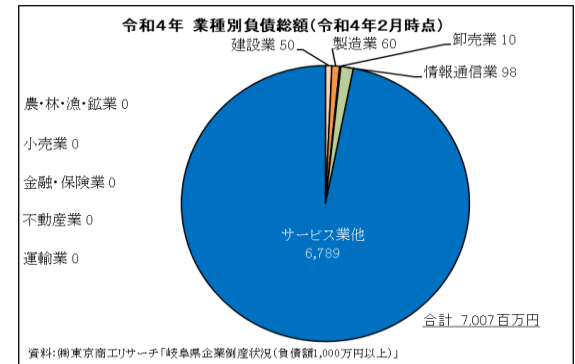
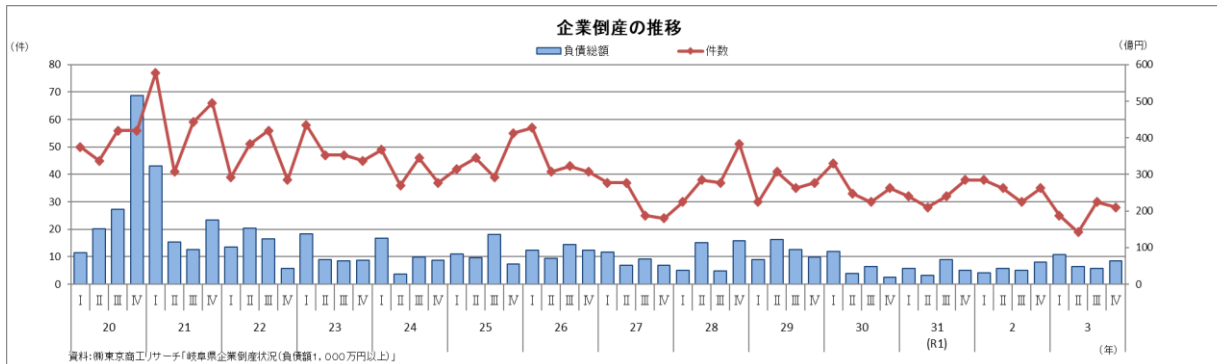
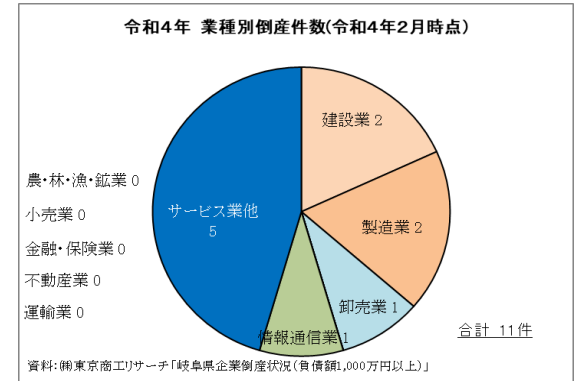
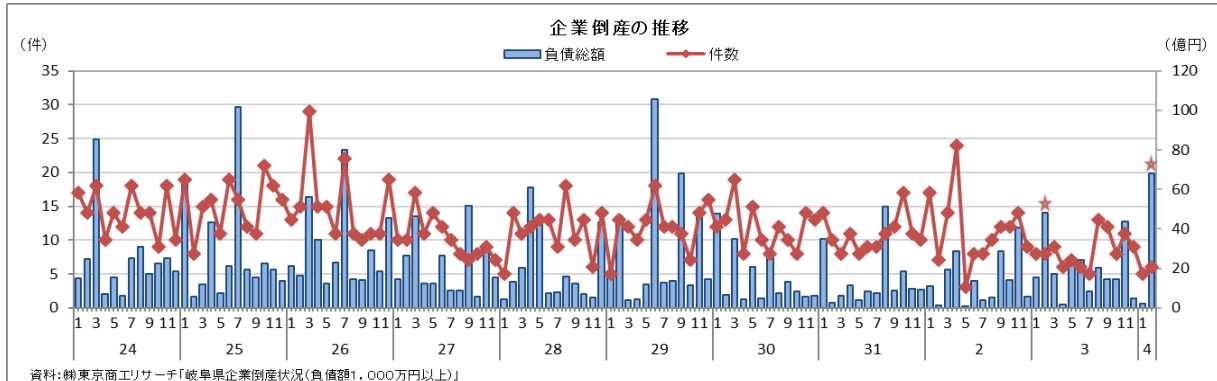
○2月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は46件で前年同月比▲37.0%減少、金額は619百万円で同▲13.4%減少した。



倒産

○2月単月の倒産件数は前月比1件増の6件、負債総額は前月比6,627百万円増の6,817百万円となった。

○令和3年2月は負債総額1億円以上の倒産が4件発生し、令和4年2月は同倒産2件と減少したものの、負債総額は前年同月比1,992百万円増加した。



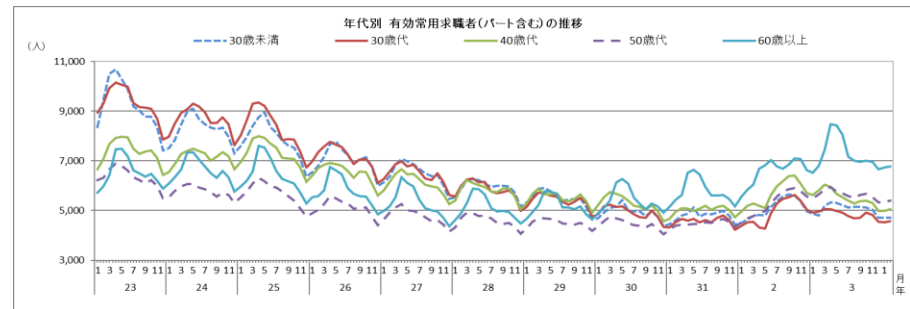
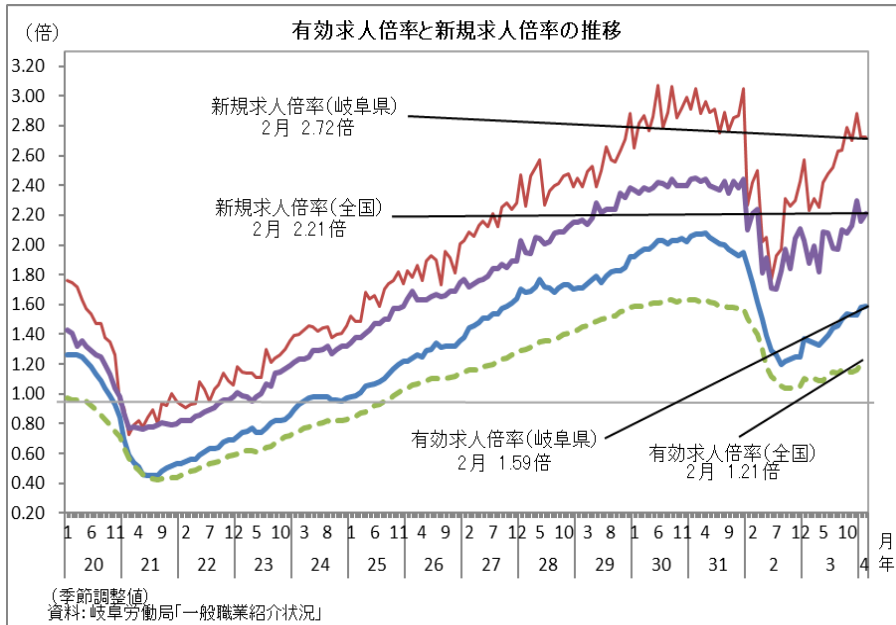
専門機関の分析(東京商工リサーチ、3月22日時点)

- ◆「まん延防止等重点措置」適用中の18都道府県は3月21日に全面解除された。ただ、自主休業が続いた飲食業や、外出自粛などによる消費関連企業の疲弊感が増している。また、経済活動が活発化すれば、新たに運転資金の手当も経営課題となってくる。政策支援、金融機関によるリスケジュール対応などの支援のほか、3月4日には経済産業省や金融庁などが「中小企業活性化パッケージ」を公表し、支援策はさらに拡充された。ただし、「過剰債務」の問題、原材料価格高騰による活動阻害への懸念は強まっており、引続き楽観はできそうにない。

雇用

- 2月の有効求人倍率は1.59倍と、前月比0.01ポイント上昇した。
- 2月の新規求人倍率は、2.72倍と前月と同値であった。

- 2月の雇用保険受給者人員は、前月比▲3.9%と減少した。
- 有効常用求職者は、50～54歳及び65歳以上を除き、前年同月比で減少した。



現場の動き

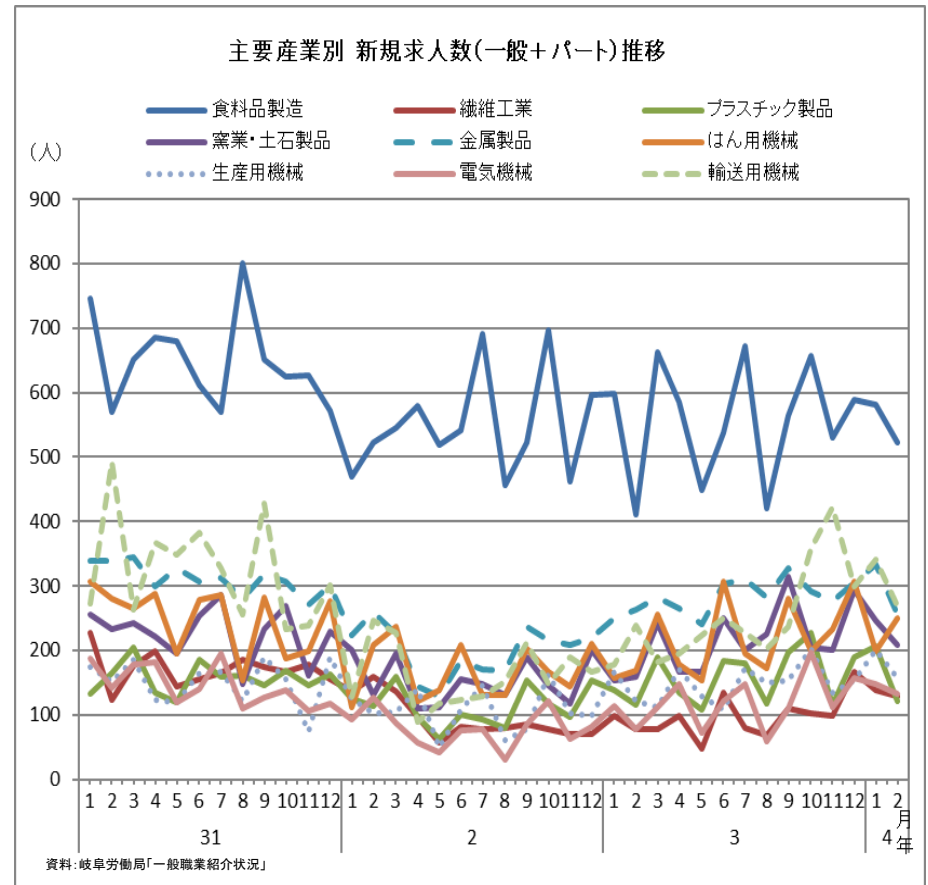
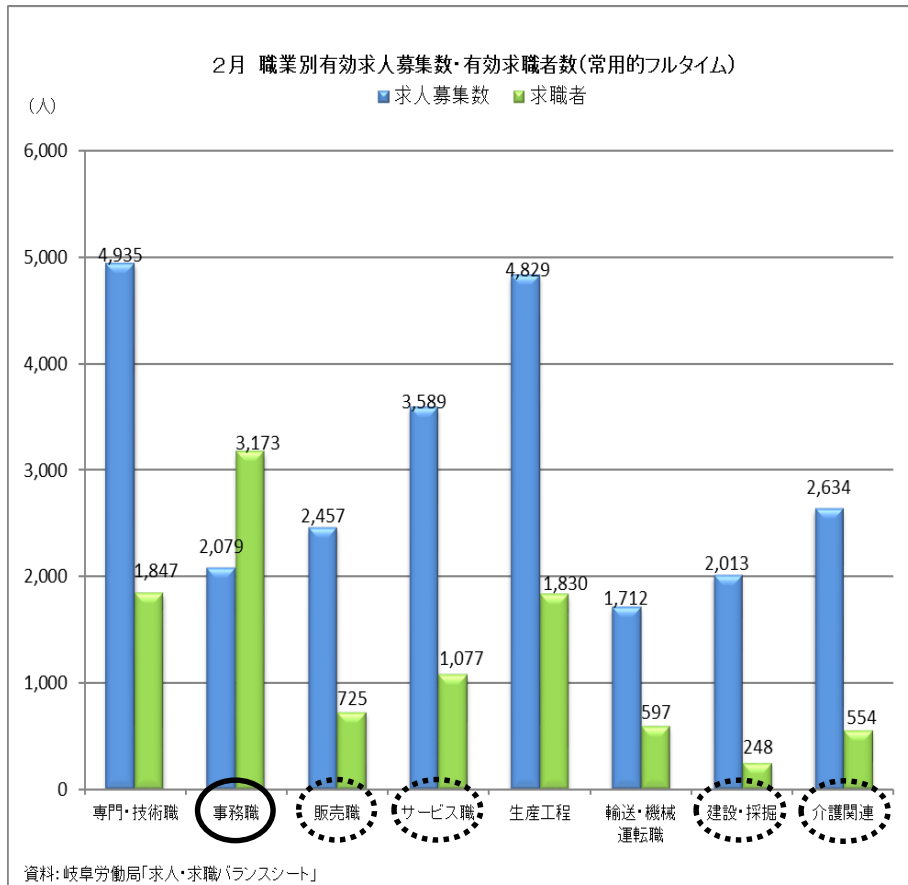
- ◆ 大手企業に派遣社員が流れていることもあり、確保が難しい状況となっている。(輸送機械器具)
- ◆ 電子加工部品が好調で、設備管理技術者及び製造担当者を多数募集している。(プラスチック製品)
- ◆ 求人の反応は良くない。高齢に伴い、正社員から非正規社員になる人が増えている。(陶磁器)
- ◆ ドライバーを募集しているが、賃金が安いことから応募者がいない。(運送)
- ◆ コロナ感染症の影響を強く受けている飲食業をはじめとする業種においては、再開、回復時の人員確保が困難となることが予想され、業績回復の足かせになるものとする。(金融機関)

雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.12倍、介護関連で4.75倍、サービス職で3.33倍、販売職で3.39倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

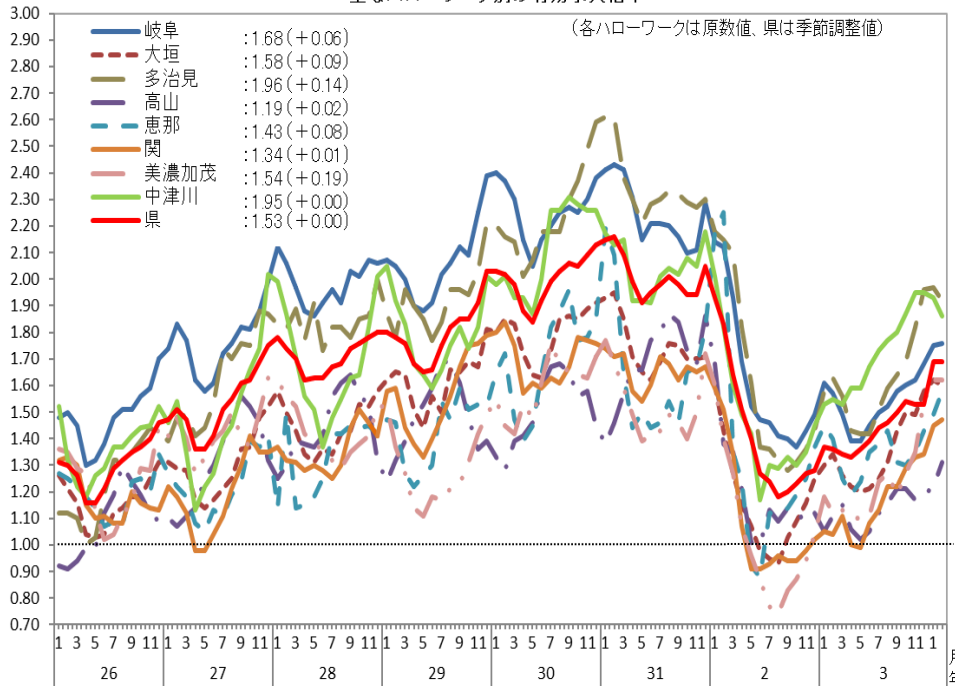
○一方で、事務職の有効求人倍率は0.66倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○2月の主要産業別の新規求人数は、電気機器で前年同月比69.23%、繊維工業で同67.53%、はん用機械で同48.21%、窯業・土石で同30.82%、生産用機械で同29.51%、食料品製造で同27.01%、輸送用機械で同12.61%、プラスチック製品で同5.17%と増加し、金属製品で同▲3.04%と減少した。



雇用(地域別)

主なハローワーク別の有効求人倍率



注1: 大垣所分は損災出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所分を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○2月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、大垣、多治見及び中津川で前月比低下し、それ以外の地域で同上昇した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子> ※前月比

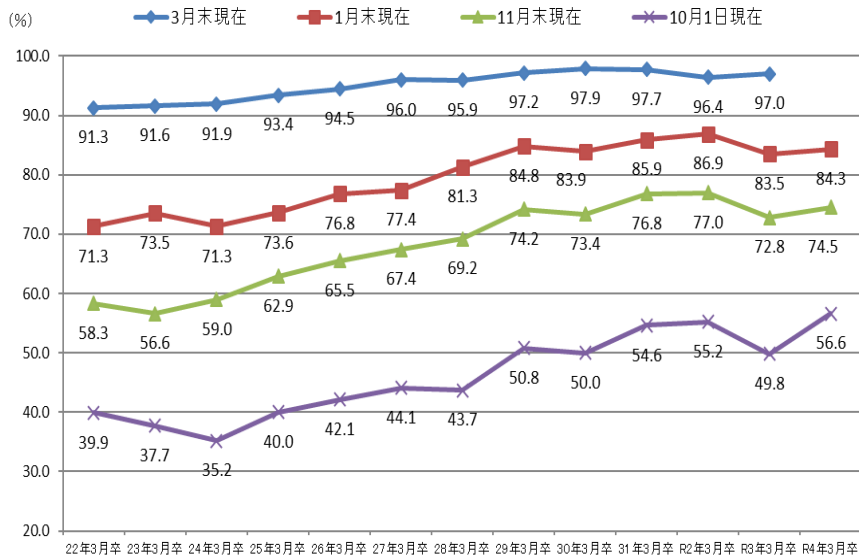
- ◆岐阜、大垣、多治見、美濃加茂及び中津川で同程度、恵那及び関でやや混雑、高山でやや空いている状況。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和4年1月末時点の大学・短大卒業生(令和4年3月卒業)の就職内定率は、84.3%であり、前年同時点と比べ0.8ポイント上昇した。

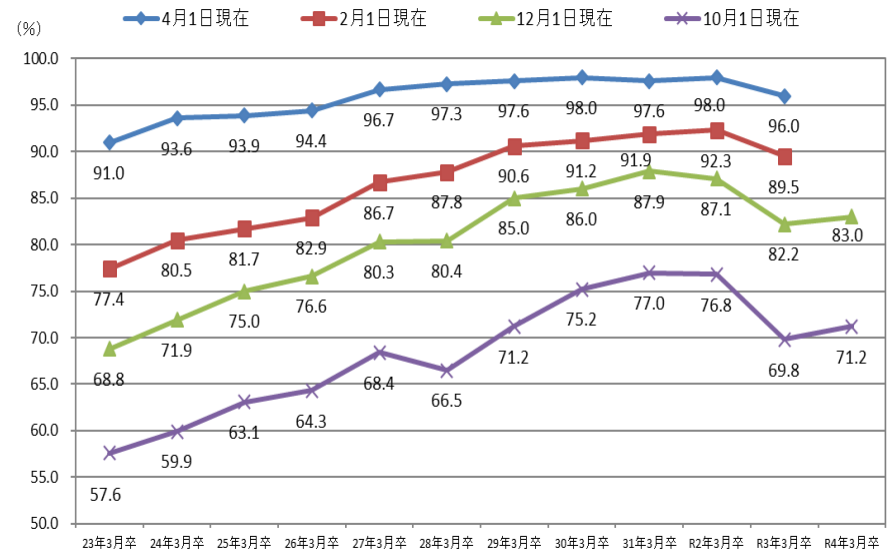
○全国の令和3年12月1日現在の大学卒業生(令和4年3月卒業)内定率は83.0%であり、前年同時点と比べ0.8ポイント上昇した。

新規卒業生(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料:岐阜労働局「新規学校卒業生(大学・短大)の就職内定状況」
資料:岐阜労働局「新規学校卒業生(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業生(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料:厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2022卒、2023卒の動きなど)

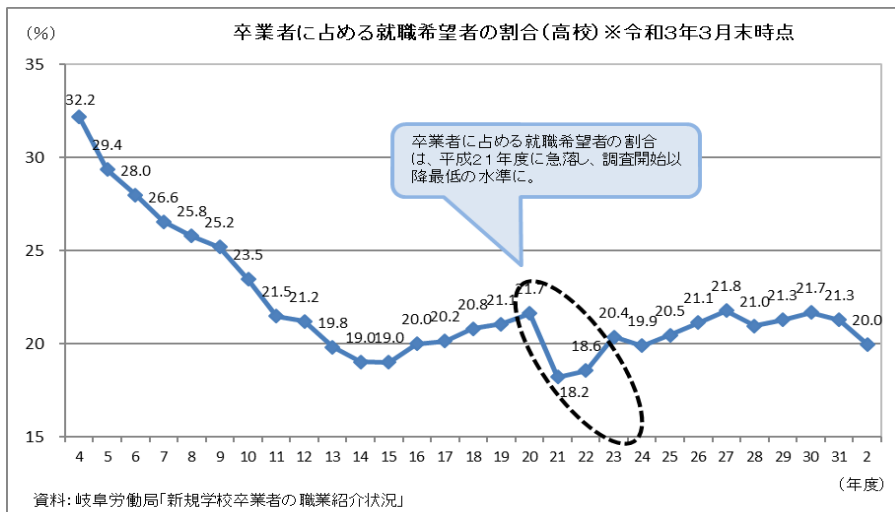
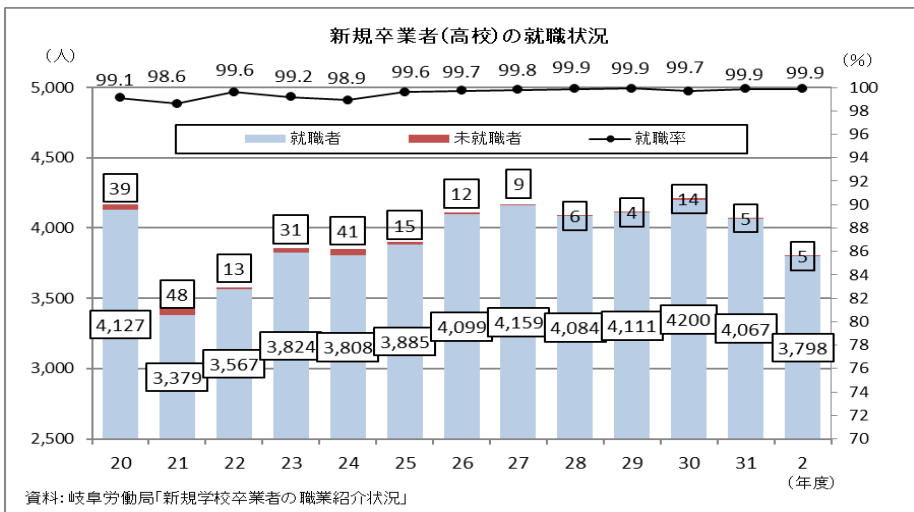
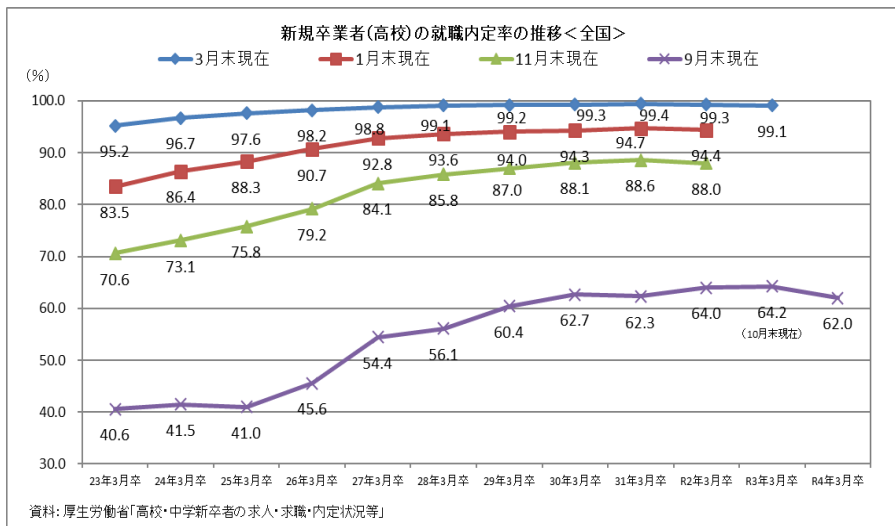
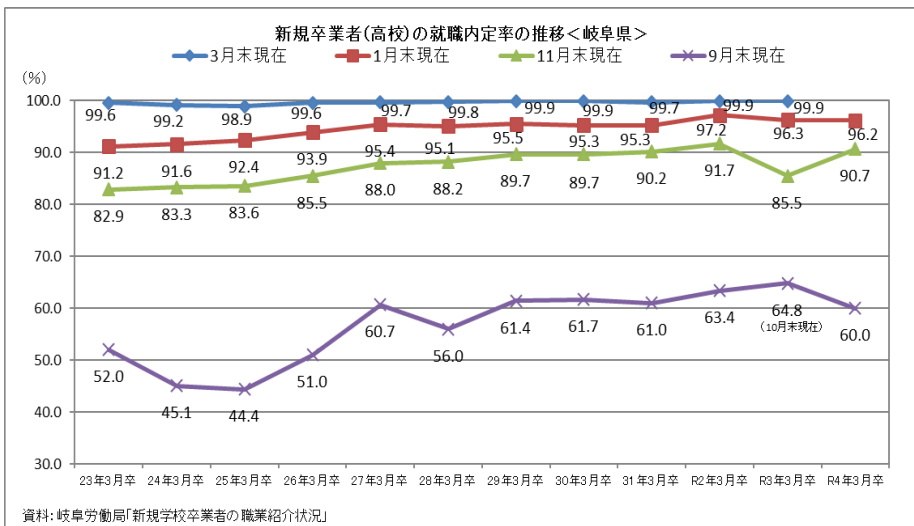
<大学へのヒアリング>

- ◆ 22卒生は9割強ほどは内定を得ており、相談はほとんどない。
- ◆ 23年卒の相談がかなり増えてきた。少し先まで予定が埋まっている。内容は、ES添削、面接対策など。
- ◆ 23年卒の全体としての動きは鈍いものの、内々定獲得の学生も出始めた。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ キャリアセンターは開室中であり、対面、オンライン、メール、電話にて相談受付。
- ◆ 学内合説を2月中旬から3月上旬まで、企業を10社ずつ程度招いてオンラインで実施した。(以上愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

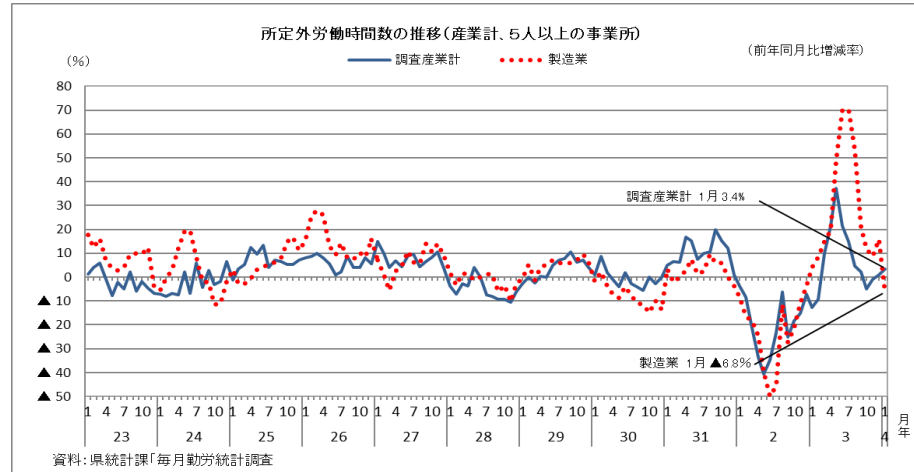
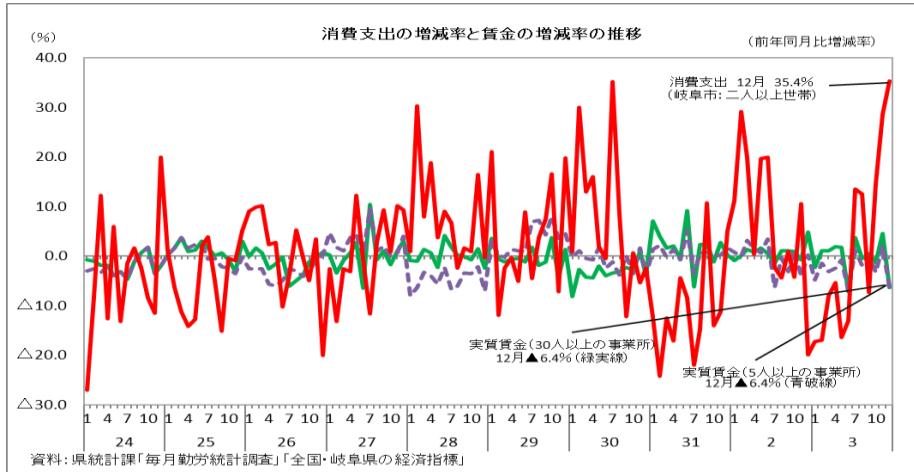
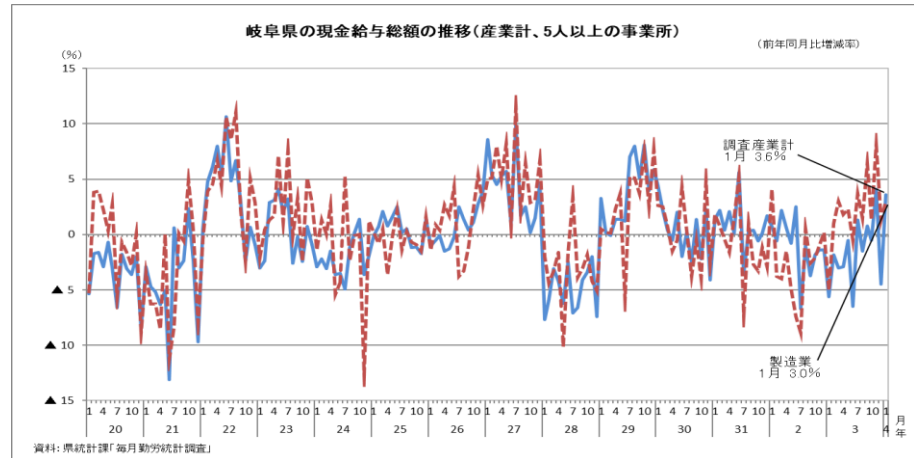
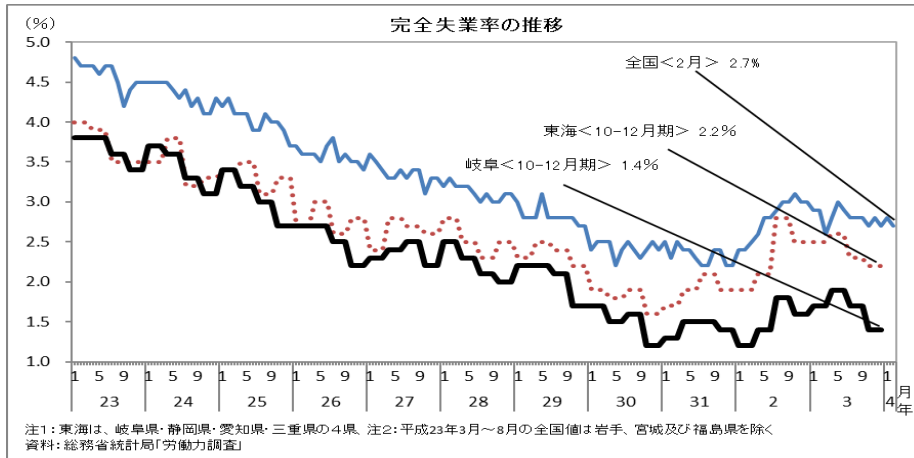
○岐阜県の令和4年1月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は96.2%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイント低下した。

○全国の令和3年9月末時点の高校卒業者(令和4年3月卒業)就職内定率は62.0%であり、前年10月比で▲2.2ポイント低下した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の2月の完全失業率は2.7%で前月比0.1ポイント低下。岐阜県の10-12月期の平均は1.4%で前期比▲0.3ポイントと低下した。
- 1月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比3.6%上昇、製造業で同3.0%上昇。
- 12月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所、5人以上の事業所ともに前年同月比▲6.4%と低下。12月の消費支出については同35.4%と増加した。
- 1月の所定外労働時間数は前年同月比3.4%で、2ヶ月連続で増加した。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、1月の鉱工業生産指数は前月比▲0.3%と僅かに低下。ヒアリングでは、売上は100%に戻りつつあるとの声があった反面、トヨタの減産の影響が1、2ヶ月後に出るかもしれないとの声もあった。このほか、コロナ感染が続いており、海外工場の閉鎖を懸念する声も聞かれた。
- 地場産業は、1月の鉱工業生産指数は、家具及び食料品以外で増加した。ヒアリングでは、売上は前年同月比でプラスで推移し、コロナ感染症拡大前に戻っているとの声があった。一方で、コロナ感染症拡大の影響により、今後の見通しは不透明であるとの声も聞かれた。
- 設備投資は、2月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で31.6%増加した。ヒアリングでは、事業再構築補助金などの補助金を活用した設備投資を行っている動きが引続きあった。一方で、金融機関からは、好調な企業はSDGsなどに関する設備投資を行っているところもあるが、全体的に設備投資が活発という状況ではない、との声も聞かれた。
- 個人消費は、2月の販売額は、スーパー及びコンビニで増加したものの、それ以外では減少し、全体でも僅かながら減少した。ヒアリングでは、まん延防止等重点措置の影響で客足が落ちてしまうとの声があった。また、原油・原材料高騰の影響により、価格上昇の原因になることは間違いないとの声も聞かれた。
- 観光は、2月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を大きく下回っている。宿泊施設からのヒアリングでは、週末でも満室になることはないとの声や、材料費や運送費の上昇により原価が上がっており、経営を非常に圧迫しているとの声も聞かれた。
- 企業の資金繰りは、2月の制度融資実績は、件数、金額ともに10ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、ゼロゼロ融資の返済が徐々に始まっていくため、今後、資金需要の高まりや条件変更等出てくると思うが、現状は目立った動きはないとの声も聞かれた。
- 雇用面は、2月の有効求人倍率は1.59倍と6ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、業績が好調で、設備管理技術者及び製造担当者を多数募集しているという声も聞かれた。一方で、大手企業に派遣社員が流れており、人員の確保が難しい状況となっているとの声や、コロナ感染症の影響を強く受けている飲食業をはじめとする業種においては、再開・回復時の人員確保が困難となることが予想され、業績回復の足かせになるものと考えられるとの声も聞かれた。